

# 2021年 10月 17日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「釣れた魚の口から銀貨」 マタイによる福音書 17章24—27節 高橋彰

## ◆神殿税を納める

17 24 一行がカファルナウムに来たとき、神殿税を集める者たちがペトロのところに来て、「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言った。25 ペトロは、「納めます」と言った。そして家に入ると、イエスの方から言いだされた。「シモン、あなたはどうか。地上の王は、税や貢ぎ物をだれから取り立てるのか。自分の子供たちからか、それともほかの人々からか。」26 ペトロが「ほかの人々からです」と答え、イエスは言われた。「では、子供たちは納めなくてよいわけだ。27 しかし、彼らをつまづかせないようにしよう。湖に行き、釣りをして。最初に釣れた魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさい。」

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

今日のテキストは短い中にイエスの知恵とユーモアを感じられるエピソードです。背後にはキリスト者であることとこの世とのかかわり方、税に対する態度、信仰の自由と責任、他の人をつまづかせないこと、などの課題にも通じる事柄でもあります。マタイ福音書にだけ記されている話で、意図はさまざまに考えられますが、読んだときに感じられるイエスと共にあり、イエスに従い学んで生きるときの解放感や希望を大事にしたいと思えます。

カファルナウムは「ゼブルンとナフタリとの地方にある湖畔の町」で、イエスが人びとの前に現れて公の活動を始められた時にナザレから「来て住まわれた」(4:13)地だとマタイは記しています。各地を宣教で巡り、拠点の町に戻って来たある日のこと、神殿税を集める人がペトロのところへやってきて「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」(24)と尋ねました。ペトロは「納めます」(然り)と答えました。

この質問はお金を出すというだけのことでありませんでした。イエスの時代、この地域もローマ帝国の支配の中でユダヤは属州で自治をしていましたが、ローマの支配から脱しようとする熱心なユダヤ民族主義的な運動もありました。さまざまな対立が激しくある中で「神殿税を納めない」というのはローマを支持する態度表明だと見なされることにもなったのです。納税拒否、不服従の疑いを向けられた圧力でもあったのです。ただでさえイエスはユダヤ教の指導者たちに目をつけられていました。イエスからも「人の子は人びとの手に渡され、殺される」と聞かされたばかりです。ペトロはとっさにここでも、イエスを守りたいと思ったかもしれません。

「神殿税」は2ドラクメという言葉です。エルサレム神殿を支えるために「二十歳以上の男子が命の代償として、主への献納物として銀半シケルを払う」(出30:11-16)に根拠を置いて、ユダヤ全土のイスラエル成人男性、さらに外国に住むユダヤ教徒、改宗者たちから徴収されていました。サマリア人と奴隷には適用されないという、税金における差別もありました。神殿でささげられる犠牲や供え物の費用に充てられ、イスラエルの罪の贖いの意味を持っていました(ネヘミヤ10:34)。半シケルは2ドラクメ=2デナリオン。二日分の労働賃金額でした。

紀元70年にローマ軍によってエルサレム神殿が破壊されユダヤが完全に支配された後、神殿税はユダヤからローマへの戦争賠償金としてローマのユピテル・カピトリヌスの神殿のために継続して支払われることになりました。政治的敗北ばかりでなく異教の神殿への支払い信仰的にも深刻な事態でした。マタイ福音書が記されたのはそのような時代の中でです。

「外」で問われたペトロが「家」に入るとイエスの方からペトロに問われます。イエスのあなたは「どうか」という問いかけをマタイは大事に記します(17:25、18:12、21:28、22:42)。「地上の王は税や貢物をだれから取り立てるのか。自分の子供たちからか、それとも他の人びとからか」。王の子どもが税金を納めないなら神の子らは本来神殿税を納める必要はないということになります。イエスはそう宣言します。そしてイエスは弟子たちをも「神の子ら」であるとも表明されます。神殿税に対して「納めなくてよい」自由さがあるという立場をイエスはまず確認され、そのうえで「彼らをつまづかせないため」に税を支払うことを選ばれます。自由があるが、不必要なつまづきを与えないために自らに制限をなす、自由さと寛容さのテーマはキリスト者たち、教会の共同体にとって当初からあった課題でありました。(1コリ8:8-11、ガラ5:13, 14)。しかし同時にマタイはイエスご自身が「つまづき」の石となられたことも記します。

イエスに従う歩みをしたいと願います。義務として強制されたものに抗い自由な者であること、神の子であることを感謝して受け止め、宣言しつつ、その自由さをもってこの世に向き合い、時に対決し、愛において積極的に行動する歩みをしたいと思います。

ペトロは漁師でした。彼がその手で一日魚を取る労をする。そこに銀貨があるだろう。ユーモアを含むイエスの予告はその通りになったでしょうか。手に汗して労する働きこそが、力や金に変換されるこの世の力に抗いながら、自由な者として生き、分かち合いをしてゆく者たちの知恵と力の源になることを覚得たいと思います。